中央大学の最新情報を伝える父母連絡会機関誌
［草のみどり］2023年9月号（通巻第339号）
2023年9月1日 中央大学父母連絡会 発行
September 2023
Vol.339
9

草のみどり

Kusa no Midori

FRONT LINE 総合政策学部

学部創立30周年を迎えた総合政策学部の学び

中央大学父母連絡会

FACULTY OF GLOBAL MANAGEMENT

世界を動かす人になろう

Vol. 21

企業経営とグローバル経済の先端知識、優れたコミュニケーション能力を養うべく、国際経営学部生は前進を続けています。

TEDUKA KENSUKE

国際経営学部での「挑戦」が広げた自分の可能性

国際経営学部国際経営学科3年／東京都立調布南高等学校出身
手塚（てづか） 謙介（けんすけ）

国際経営学部との出会い

初めまして。今回はせっかく「草のみどり」に寄稿させていただくので、僕が持つマインドセットや軸を、国際経営学部での経験に絡めて共有したいと思います。まず、僕のバックグラウンドについて知ってもらいたいので、少しだけお話しさせてください！

高校時代の僕はクラスで一番成績が悪く、落ちこぼれでした。英語が大嫌いで先生と口論になり「英語なんか将来必要ない！」と受験期間真っ只中のクラスで一人騒いでいるほどのバカでした。かなりの問題児で僕専用の職員会議も開かれていたらしいです。結局大学受験はせず、高校卒業後はお笑い芸人をめざし、1年間放浪していました。事務所のオーディションに行ったり、ネタを書いたりしていました。高校卒業後1年が経ち、急に大学で勉強したいという欲が出てきます。そこで1年の自宅浪人を経て合格したのがこの中央大学国際経営学部です。おかげで周りよりも2年遅れで大学に入りましたが、この選択に後悔はないです。

国際経営学部に入ってから大事にしていること

大学に入学してから常に意識していることがあります。一つは「背伸びすること」、二つ目は「周りの人を大事にすること」です。

まず前者について。中央大学に入るなんて高校生の時の自分からしたら、かなりのステップアップです。入学した当初は周りのレベルの高さに驚きました。しかしただ圧倒されるのでなく、背伸びをして食らいついていったので今の自分があります。常に自分のレベルよりも高い環境に身を置くことで人は成長できます。僕はこれを実践して、英語を話せるようになりました。

次に後者について。「周りの人を大事にすること」です。これはこの後にお伝えする学生団体の活動において、最も意識していたことと言っても過言ではありません。仕事をするにしても、友達と過ごす日常においても、周りのことを第一に考え大事にしていると、いつしか自分の周りの環境はとても過ごしやすいものに変わると思います。

G-ACEとの出会いと代表としての1年

僕は1年生の後期にG-ACEに入り、2年生になるタイミングで代表に抜擢されました。G-ACEは、学部生向けに留学支援や異文化交流の場を提供し、英語学習や留学に興味を持ってもらうために活動している国際経営学部公認の学生団体です。代表になったものの今までリーダーシップをとった経験がないため、最初は右も左もわからない状態でした。

自分がこの団体に残した大きなものは、カルチャーです。人を大事にするという価値観から、メンバーに対し常に真摯に

1

2

3

1 G-ACE の頼れるメンバーたち　2 G-ACE が海外の高校生にキャンパスツアーをした時の様子
3 G-ACE として GLOMAC-AWARD を受賞した時の様子

向き合ってきました。その甲斐もあってとてもアットホームな雰囲気の良い団体になりました。その雰囲気をメンバーも誇りに感じていると思います。そして頼もしいメンバーのおかげで新メンバー募集に成功し、現在は僕が代表に就任した当初の3倍程のメンバーを抱えています。

団体代表として過ごした1年で得た一番大きなものは「リスクを冒す勇気」です。代表になることも勇気のいる決断でした。そして活動の中で、代表として時には勇気のある決断もしました。何かを決断をする時にさまざまなリスクを想像して、一歩を踏み出せない人も多いのではないでしょうか？ そのような場面において勇気を持って前に進むことができると、次の決断は前よりもだいぶ楽なものになると思います。失敗したときに失うものはたかが知れています、逆に得るもののほうが大きいです。この繰り返しで僕は強くなりました。

出来上がっていく自分の軸

国際経営学部での学修やG-ACE代表の経験などのさまざまな活動を通して自分の軸が輪郭を帯び始めています。僕は、この学部に入ったことが人生を大きく変えてくれたと胸を張って言えます。この学部の良さは、学生の挑戦に対して寛大なところです。学生が実現させたいものに対して事務室はサポートをしてくれます。この学部でのおよそ2年半の挑戦を通して、僕は一回りも二回りも人として成長できたと感じています。今でも挑戦に対して多少の不安はありますが、以前ほどではありません。挑戦は自分を強くし、自分ならなんでもできるという「自信」を与えてくれました。

この2年半で得た仲間や協力してくださった事務室の方々には感謝しかありません。僕はこれから上級学年、先輩として、下の世代の背中を押せる人になります！

国際経営学部だより

工夫と努力で、ハードな大学生活を乗り切ろう

国際経営学部の特色の一つは、設置科目の７割を外国語（主に英語）で実施していることです。たとえば、私の担当科目である経営数学入門やミクロ経済学などでは、実際にアメリカの大学で採用されている教科書を使って、英語で授業を行っています。高校まですべて日本語で授業を受けてきた学生にとっては、英語で授業内容を理解する必要があるこの学習環境はとてもハードだと思います。

実は私も、同じような環境に身を置いたことがあります。私は 21 歳の時にアメリカの大学に編入するために渡米しました。それまですべての教育を日本語で受けていた私は、英語を話すのも聞き取るのもまったくダメでした。そのような私でしたので、現地の大学に編入した当初はネイティブスピーカーが話す英語の速さに圧倒され、授業についていくのに大変苦労しました。

そうした厳しい学修環境を生き抜く方法として、いくつか実践したことがあります。一つは予習です。事前に自力で分からない箇所に目印をつけておき、授業中はその箇所の説明だけは聞き逃さないように集中しました。事前に授業内容を知っておくことで、不足するリスニング力を補うことができました。

もう一つは、間違いを恐れず、英語でのコミュニケーションを純粋に楽しむことでした。英語の練習と授業での疑問の解消も兼ねて、教員のオフィスアワー（学生からの質問や相談に応じるための時間帯）を積極的に利用しました。「学び」とは、その行為自体の中に喜びや感動、驚きを発見することだと思います。「自分の言いたいことが伝わった！」「相手の言っていることが分かった！」という喜び、感動を積み重ねることがその後の英語学修への大きな後押しになりました。

厳しい学修環境の下で頑張る国際経営学部生が「この学部に来て本当によかった！」と思えるように、これからも微力ながら彼らの学生生活をサポートしてまいります。

国際経営学部准教授　大坪（おおつぼ） 弘教（ひろのり）